河内長野市立千代田中学校

# 「令和4年度全国学力・学習状況調査」(4/19 実施) の結果について



## 《基本的な考え方》

本調査については、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」と文部科学省の目的にあります。これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

- 〇子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲を高め、自ら 目標を持って今後の学習の改善や励みになる。
- 〇学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・ 授業力の向上につながる。

# 《調査結果の取り扱い》

- ◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。
- ◇今年度も昨年度と同様、全国学力・学習状況調査の結果を提供いたします。 「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

#### 《お願い》

- 口学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。 友だちや兄弟姉妹と比較することは自尊感情を傷つけ、意欲を低下させる場合があります。 子ども個人の成長を認め、 さらなる課題を意識させることで、学習意欲が高められるよう、 ご対応お願いします。
- 口学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子ども たちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にしていただきますよう よろしくお願いします。
- 口調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いします。

# 各教科の分析

#### 【国語】

#### 概要

文法事項や漢字、語句の意味、書写などの知識・技能についてはおおむね定着しているといえる。

一方、自分の考えをまとめ伝える思考・判断・表現にかかわる設問への正答率が低く、無回答率も高い。

#### 特に成果が見られた問題例

2 二①・2 一②「文脈にそくし正しく漢字を書く」、4 二 「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する」は、毎時間の小テストや知識理解に基づいた書写の授業の成果である。

#### 特に課題が見られた問題例

- 1 三「スピーチのどの部分をどう工夫するのかとその意図について書く」は、全ての設問の中で無回答率も最も高かった。同じ記述式の設問であっても、3 四「場面の内容を理解し、話の展開を取り上げて書く」は、それなりの正答率であったことから考えると、論理的に考え、根拠を示して書く機会を今まで以上に設ける必要がある。
- 4 一「行書の特徴を踏まえた書き方について理解する」は、4 の他の小問の正答率から考えると、知識の定着よりも知識の応用に課題があるといえる。既知の知識を基に新しい課題を解決する態度を養うことが大切である。

## 【数学】

#### 概要

一定の基本的な計算や数学的基礎知識は少しずつ定着しつつあるが、4領域全体的に知識を活用する問題などに課題が見られ、記述問題の無解答率が高かった。中でも、図形やデータの活用に関する理解が今後の大きな課題である。

#### 特に成果が見られた問題例

- |2| 連立二元一次方程式を解く問題
- 5 確率の意味を理解しているかを問う問題

上記の問題は、授業などでの反復練習を行っていた成果がみられる。

#### 特に課題が見られた問題例

- 6 (3) 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明する問題
- |8|(2) 問題解決の方法を数学的に説明する問題
- 9 (2) 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題

これらの問題は無解答率が高く、説明する問題が大きな課題である。授業で基本的な問題から取り入れていき、順序立てて説明する力をつけたい。

#### 【理科】

#### 概要

身近にあることや現象についての知識は高い。

しかし、文中に入る適語を書く、説明文や図版・グラフを見ての思考力を問う設問については課題がある。

また、選択式問題の無答率を見ると前半0%であったのが、後半に数%出てくるのは、時間が足りず最後までとり組めなかった可能性が考えられる。

#### 特に成果が見られた問題例

1(1), 7(1), 8(3) など身の回りで見られる内容について知識として定着している。

#### 特に課題が見られた問題例

- 3(3) 説明文や図を見ての記述問題
- 5(3),8(1),8(2)実験内容の不足分を補う追加実験についての記述問題これらの問題は、無解答率が高い。長い説明文や図などを見て思考判断する力が弱いように思える。今後、授業の中でも資料や図版などを見て思考する機会を増やしていきたい。

# 生徒質問紙からの分析

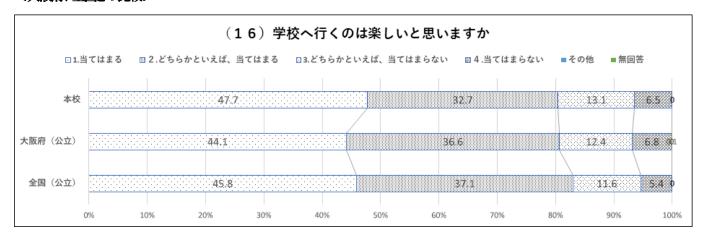
# 特に成果が見られたアンケート項目例 ※数値は肯定的回答の割合

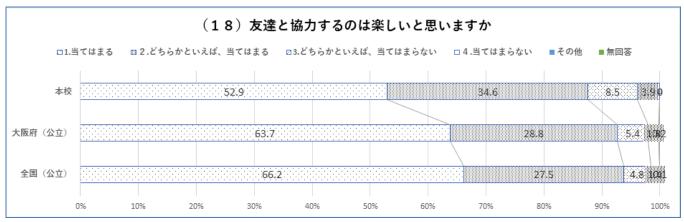
- ○「学校に行くのは楽しいと思いますか」 86. 7%
- ■肯定的回答のうち、「はい」と回答 (=全肯定) した生徒は 47.7% おり、府 (44.1) や全国 (45.8) と比較して高いです。
- ○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」 87.5% (府 92.5、全国 93.7)
- ○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」70.0% (府 74.5、全国 76.9)
- ☞友達の意見にしっかりと耳を傾け、ともに協力する楽しさを知っている生徒が育っています。本校学習指導の主題としている「つながり合い学び合い」の精神が生徒に根づいていることを示しています。
- ○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 98.7%
- ■肯定的回答98.7%のうち、「はい」と回答(=全肯定)した生徒は85.6%おり、府(81.6)や全国(82.6)と比較しても高い数値です。人権道徳教育や日常の様々な活動を通して、生徒の心が豊かに育まれ人権感覚が身についていると言えます。

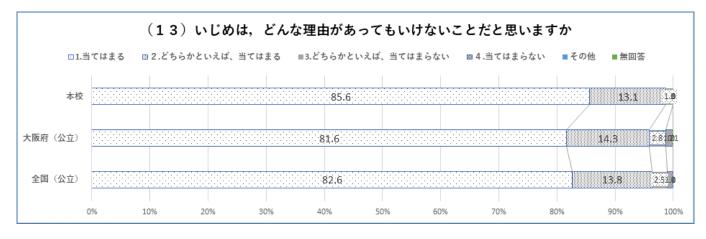
# 特に課題が見られたアンケート項目例 ※数値は肯定的回答の割合

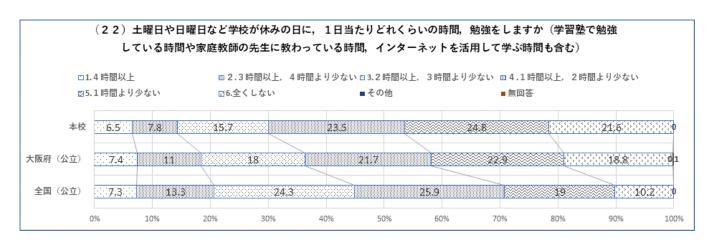
- ●「自分にはよいところがあると思いますか」 64.7% (府 75.2、全国 78.5)
- ●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」61.5%(府 72.7、全国 67.1) 自己肯定感の低さは多方面に波及します。間違いを恐れないでチャレンジしてみる、相手と異なる意見や考えであっても伝えてみるといった積極的な姿勢を様々な経験を通して育んでいく必要があります。
- ●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」 ←「全くしない」21.6%(府18.8、全国10.2)
- ●「家で、自分で計画を立てて勉強している(学校の授業の予習や復習を含む)」 43.8% (府 5 4.5、全国 58.5)
- ■週末に学習時間は2時間以上、そして日々の家庭学習を自ら計画的に取り組んでいる生徒は約半数います。与えられた課題や提出物に対しては真面目に取り組んでいますが、毎日の授業の予習復習など、自分なりの学習を進めていくことが必要です。その一方で、全く勉強をしない生徒が2割を超えています。
- ●「普段(月~金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」 ←「4時間以上する」と答えた生徒 30.7% (=全国の約1.8倍) 全国16.3%
- ☞携帯電話やゲームに費やす時間の増加が全国・府にもまして著しく、このことが家庭学習時間にも影響していると考えられます。校区小学校でも同様、年々児童の使用時間が増加していると聞きます。学校でも適切な使用方法について指導し注意を促していますが、ご家庭で話し合って自らルールをつくり、それを守らせるという方法も考えられます。一律に禁止するのではなく、必要不可欠となっていくツールの一つとして有効使用することが肝要です。
- ●「学校の授業時間以外に、普段(月~金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」 ← 「全く読まない」 62.1%
- ☞読書は、読解力や思考力に影響を及ぼします。ゲーム、SNS等の普及が一因と考えられます。 (府47.4、全国39.0)。

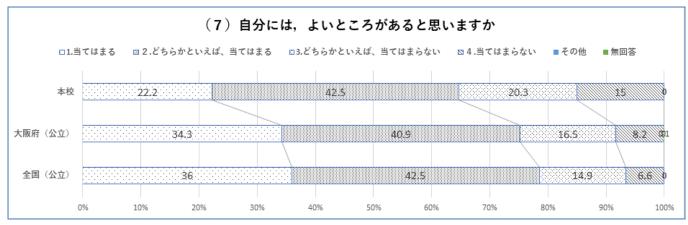
#### <大阪府、全国との比較>

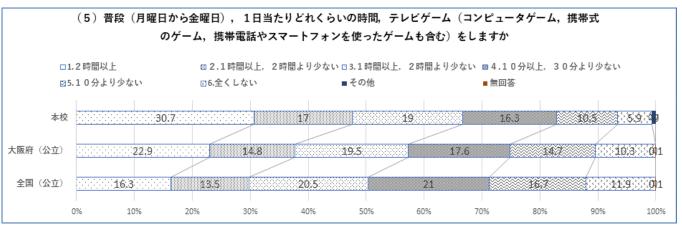


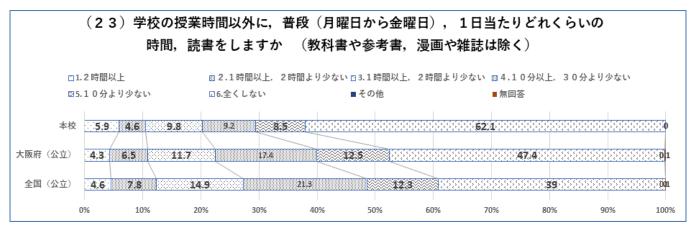












# 調査結果を受けて

## 学校が重点的に取り組んでいくこと

本校は、平成25年度より「すべての子どもたちが、つながり合い学び合う授業づくり」を主題に掲げ、支援教育の観点から合理的配慮に基づく授業研究を行い、10年目を迎えます。この間、学習指導部を中心に生徒の「学力向上」をめざし、学習規律の確立と、生徒の主体的対話的な活動を増やし、すべての生徒が参加し「わかる授業づくり」に取り組んできました。

一昨年度からのコロナ禍を受け、今年度も~基礎基本の徹底と、自ら学び考える力の育成~をサブテーマとしています。授業を構造化し、めあての提示、言語活動の充実、ふり返り活動等の「授業づくり共通認識リスト」をもとに授業改善を進めています。校内授業公開month期間中は学年を問わず相互に授業を参観しています。

また、スムーズな小中接続をはかるため、校区小学校と学力向上担当者会を定期開催し、小中合同研修会、研究授業、家庭学習ノート強化週間や生活指導を行っています。

生徒が自分の考えをまとめて表現できるような授業をめざし、①生徒の思考に即して授業展開を考える(主体的)、②思考を交流させ、協働して問題解決する(対話的)、③つけたい力を焦点化する(深

い学び)、を重点に取り組んでいきます。生徒一人ひとりの学力向上・自己肯定感の向上のため、さまざまな領域で教育実践を継続してまいります。

# 生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

- ①授業中はしっかりと取り組み、わからない部分があればそのままにしておかず、先生に質問しましょう。
- ②家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。毎日、自分で時間を決めて学習する習慣をつけましょう。特に、その日のうちに、授業内容を復習することが大切です。KGノートを活用しましょう。
- ③読書は、すべての学習の基礎となる「考える力」を養います。図書館を積極的に利用し、本を読みましょう。

## 保護者のみなさまに協力していただきたいこと

学習への意欲は子どもの自尊感情と大きく関係します。他と比較するのではなく、お子さまの努力や成長を認め、大いに褒めてください。そしてさらなる課題を意識させることで学習意欲が高まります。ゲームや携帯電話・スマートフォン、SNS関連に費やす時間の長さが著しいのは上述の通りです。睡眠時間が充分取れなければ学校生活だけでなく健康面でも不調をきたします。お子さまの生活の様子を把握していただき、場合により適切な対処をお願いします。規則正しい生活習慣が学力向上につながります。また、学校での出来事や地域社会で起こっていることについて、日頃から話し合う時間をとってください。今後とも、ご家庭と学校がともにお子さまを健やかに育んでいけますよう、ご協力をお願いいたします。